

## 5.6 人と自然との触れ合いの活動の場

### (主要な人と自然との触れ合いの活動の場)

「人と自然との触れ合いの活動<sup>\*1</sup>」とは、過度に自然に影響を及ぼすことなく自然と共生し、それを観察、利用することにより、自然の持つ効用等を享受することであり、登山、トレッキング等が該当すると考えられます。

ダム完成後には、触れ合い活動の場の縮小・消滅または利用性・快適性の変化が考えられるため、対象事業実施区域及びその周辺に分布する触れ合い活動の場の改変の程度、利用性の変化及び快適性の変化について調査、予測及び評価を行いました。

#### (1) 調査手法

調査すべき情報は、主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況、利用の状況及び利用環境であり、調査手法を表 5.6-1 に、調査地域及び調査地点を表 5.6-2 及び図 5.6-1 に示します。

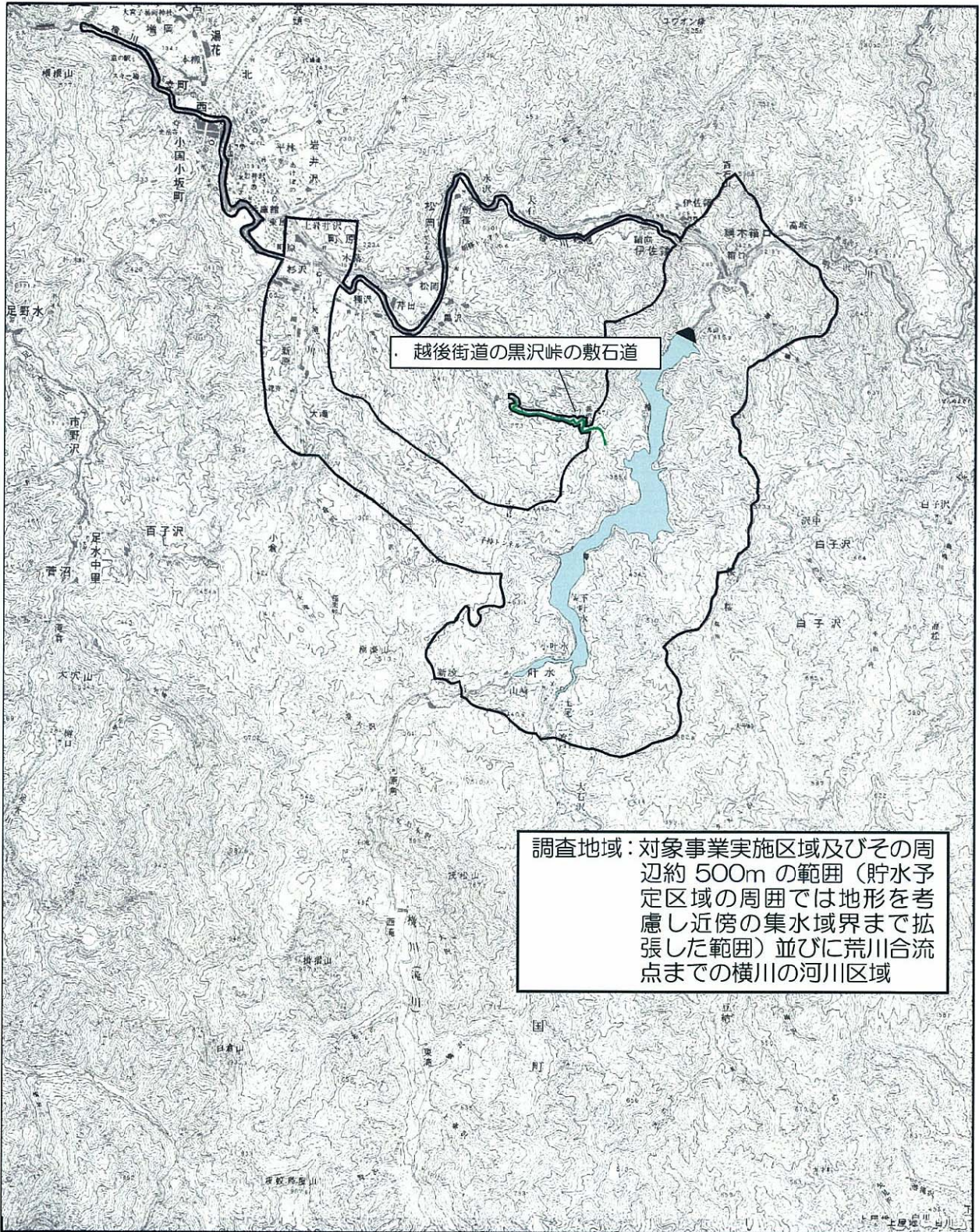
表 5.6-1 人と自然との触れ合いの活動の場の調査手法

調査項目	調査方法	調査内容
主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況	文献調査 現地踏査	文献調査及び現地踏査により、人と自然との触れ合いの活動の場を抽出しました。
主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況及び利用環境	文献調査	上記により抽出された人と自然との触れ合いの活動の場について、文献調査及び現地踏査により利用状況及び利用環境を把握しました。

表 5.6-2 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の調査地域及び調査地点

調査項目	調査地域・調査地点
主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況	対象事業実施区域及びその周辺約 500m の範囲（貯水予定区域の周囲では地形を考慮し近傍の集水域界まで拡張した範囲）並びに荒川合流前までの横川の河川区域
主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況及び利用環境	越後街道の黒沢峠の敷石道

\*1 人と自然との触れ合いの活動：登山、トレッキング、ハイキング、森林浴、散策、サイクリング、オリエンテーリング、自然観察、バードウォッチング、ピクニック、キャンプ、花・新緑・紅葉等の鑑賞、スターウォッチング等



調査地域：対象事業実施区域及びその周辺約 500m の範囲（貯水予定区域の周囲では地形を考慮し近隣の集水域界まで拡張した範囲）並びに荒川合流点までの横川の河川区域

凡 例





-  ダム堤体
-  貯水予定区域
-  調査地域
-  越後街道の黒沢峠の敷石道



図 5.6-1  
人と自然との触れ合いの活動の場の調査地域及び調査地点

(2) 調査結果

調査結果を表 5.6-3 に示します。

表 5.6-3 人と自然との触れ合いの活動の場の調査結果

調査項目	調査地域・調査地点	概要
布れ主要な人の活動の場との触れ合いの状況	対象事業実施区域及びその周辺約 500m の範囲（貯水予定区域の周囲では地形を考慮し近傍の集水域界まで拡張した範囲）並びに荒川合流点までの横川の河川区域	調査地域周辺における人と自然との触れ合い活動の場は、朝日連峰や飯豊山を中心とした豊かな自然を生かした野外レクリエーション資源及び自然景観を背景としたキャンプ場、登山道、ブナの森等を散策できる散策路等が存在しています。 文献調査、現地踏査等により、調査地域内における、不特定かつ多数の者の利用している人と自然との触れ合いの活動の場として、「黒沢峠の敷石道」を抽出しました。
利用状況及び自然との触れ合いの活動の場の利用環境	越後街道の黒沢峠の敷石道 〈写真 5.6-1〉 〈図 5.6-2〉	主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況及び利用環境として、越後街道の黒沢峠の敷石道の調査を行いました。米沢と越後を結ぶ越後街道には、13 の峠があり、黒沢峠は越後街道のほぼ中間に位置します。黒沢峠は約 3,600 段の敷石道があり、天然ブナ林や敷石道の魅力が多くの人を引きつけており、散策道として利用されています。 また、黒沢峠の敷石道は、散策路ということもあり、利用人数は特に把握されていませんが、昭和 61 年から毎年「黒沢峠まつり」が行われており、平成 18 年のまつりには約 200 人の参加が見られました。 なお、黒沢峠へのアクセスルートは国道 113 号黒沢地先からと、国道 113 号箱口を通じて県道川西小国線からと、国道 113 号沼沢を通じて県道玉川沼沢線からの 3 経路があります。



写真 5.6-1 越後街道の黒沢峠の敷石道の状況

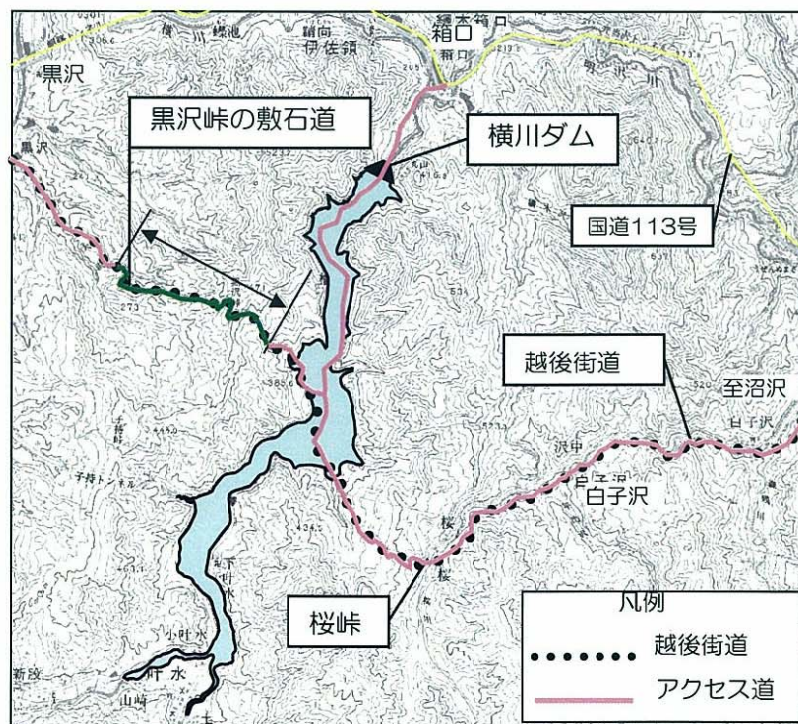


図 5.6-2 越後街道の黒沢峠の敷石道の位置

(3) 予測手法

予測対象とする影響要因と環境影響の内容を表 5.6-4 に示します。

影響要因は「土地又は工作物の存在及び供用」に係る状況について、「改変の程度」、「利用性の変化」及び「快適性の変化」に分けました。なお、影響要因毎の予測手法は表 5.6-5 に示すとおりとしました。

表 5.6-4 予測対象とする影響要因と環境影響の内容

影響要因		環境影響の内容	
び土地 供用 又は 工作物 の存在 及	ダム の堤体 の存在 ダム の供用 及び貯 水池 の存在 道路 の存在 建設 発生土 処理場 の跡地 の存在	改変 の 程度	ダム の供用 及び貯 水池 の存在 等によ り、主 要な 人と 自然 との 触れ 合い の活 動の 場が 改変 され るお それ があ ると 考え られ ます。
		利用 性 の 変化	ダム の供用 及び貯 水池 の存在 等によ り、主 要な 人と 自然 との 触れ 合い の活 動の 場の 利用 性が 変化 する おそれ があ ると 考え られ ます。
		快 適 性 の 変化	ダム の供用 及び貯 水池 の存在 等によ り、主 要な 人と 自然 との 触れ 合い の活 動の 場の 快適 性（ 近傍 の風 景、 水質 ）が 変化 する おそれ があ ると 考え られ ます。

表 5.6-5 環境要因毎の予測手法

影響要因		予測の基本的な手法	予測地域	予測対象時期等
改変の程度		主要な人と自然との触れ合いの活動の場と事業計画を重ね合わせるにより、改変の程度を予測	調査地域と同様	試験湛水終了後の治水、利水面で安定的なダム管理が行われている時期
利用性の変化		主要な人と自然との触れ合いの活動の場と事業計画を重ね合わせるにより、利用性の変化を予測	調査地域と同様	試験湛水終了後の治水、利水面で安定的なダム管理が行われている時期
快 適 性 の 変 化	近傍の風景の変化	環境影響要因が視野に入るかどうかを確認し、視野に入る場合には近傍の風景の変化を把握することにより、影響を予測	調査地域と同様	試験湛水終了後の治水、利水面で安定的なダム管理が行われている時期
	水質等の変化	親水性の高い活動が行われている場合に、水質等が変化することによる活動の変化を把握することにより、影響を予測		

(4) 予測結果

予測結果を表 5.6-6 に、主要な人と自然との触れ合いの場と事業計画を重ね合わせた結果を図 5.6-3 に、アクセスルートの変化の状況を図 5.6-4 に示します。

表 5.6-6 人と自然との触れ合いの活動の場の予測結果

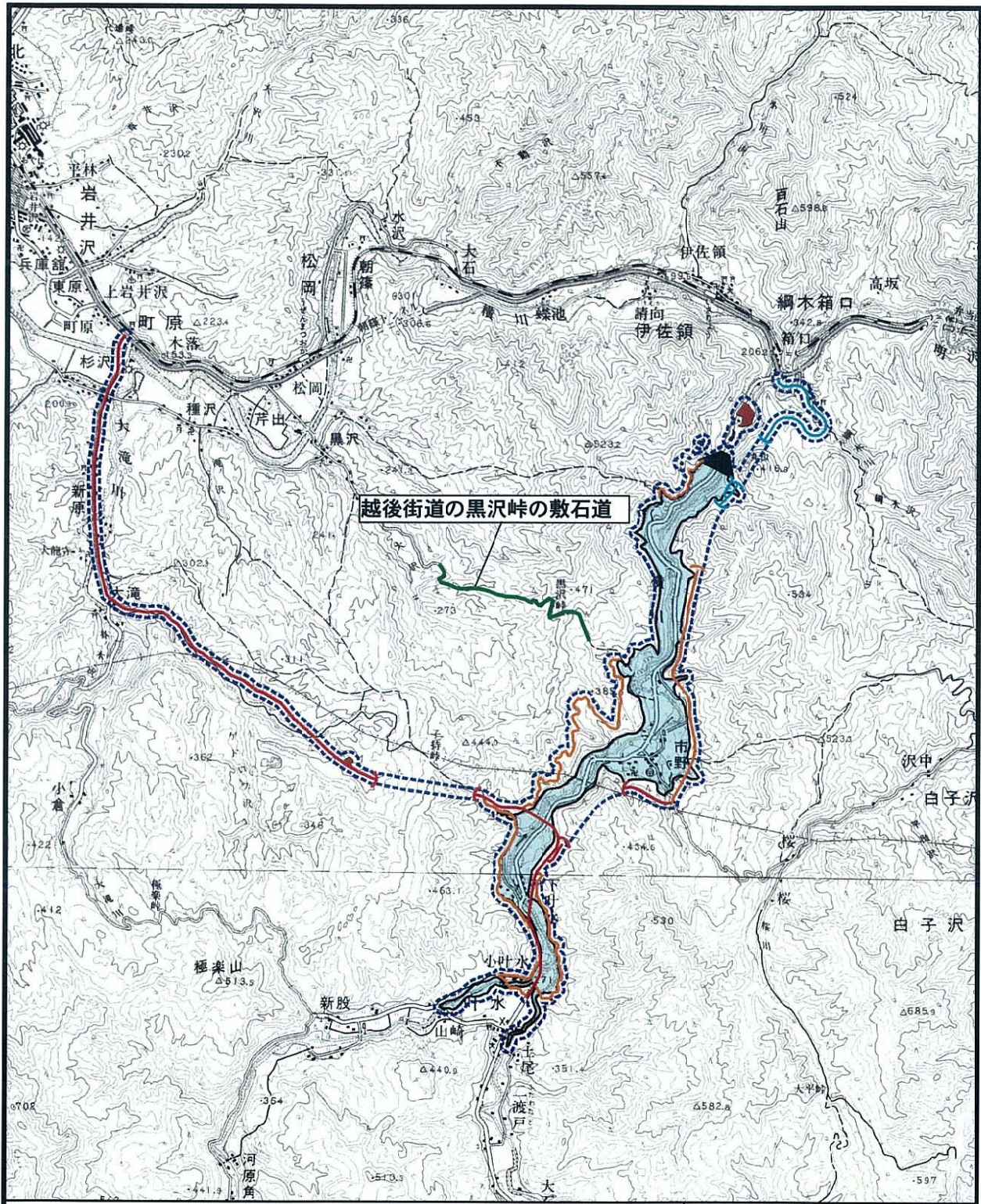
予測地点	予測項目	予測結果の概要	環境保全措置の検討 <small>注1)</small>
越後街道の黒沢峠の敷石道	変更の程度	主要な人と自然との触れ合いの活動の場と事業計画を重ね合わせた結果から、対象事業の実施により変更されないと予測されます。	—
	利用性の変化	3 経路あるアクセスルートのうち、2 経路が水没するものの、水没する経路の付替道が迂回ルートとして確保されます。国道 113 号箱口地先からのルートでは、迂回による増加距離が 6.1km、増加時間が 12 分程度(時速 30km の場合)と想定され、国道 113 号沼沢を通じて県道玉川沼沢線からのルートでは、迂回による増加距離が 3.3km、増加時間が 7 分程度(時速 30km の場合)と想定され変化は小さいと考えられます。 なお、迂回ルートとは別の付替道路が整備されることで、アクセスルートは合計 4 経路に増加します。 また、ダム湖内に「不動出生橋(ふどういづるきばし)」などの新街道を設置します。<写真 5.6-2> <small>注2)</small> 以上のことから利用性の変化は小さいと予測されます。	—
	快適性の変化	黒沢峠の敷石道の近傍景観には、影響要因が視認されないことや、黒沢峠の敷石道は、水質に影響を受ける活動が行われておらず、水辺にも近接していないことから、快適性の変化はないと予測されます。	—

注 1) —：環境保全措置の検討を行わない項目を示します。

注 2) 新街道は、平常時の最高水位時は湖内に沈んでいますが、ダム湖の水位が下がる洪水期の制限水位以下の時に姿を現し、通行することが可能となります。<写真 5.6-2>



写真 5.6-2 新街道の状況

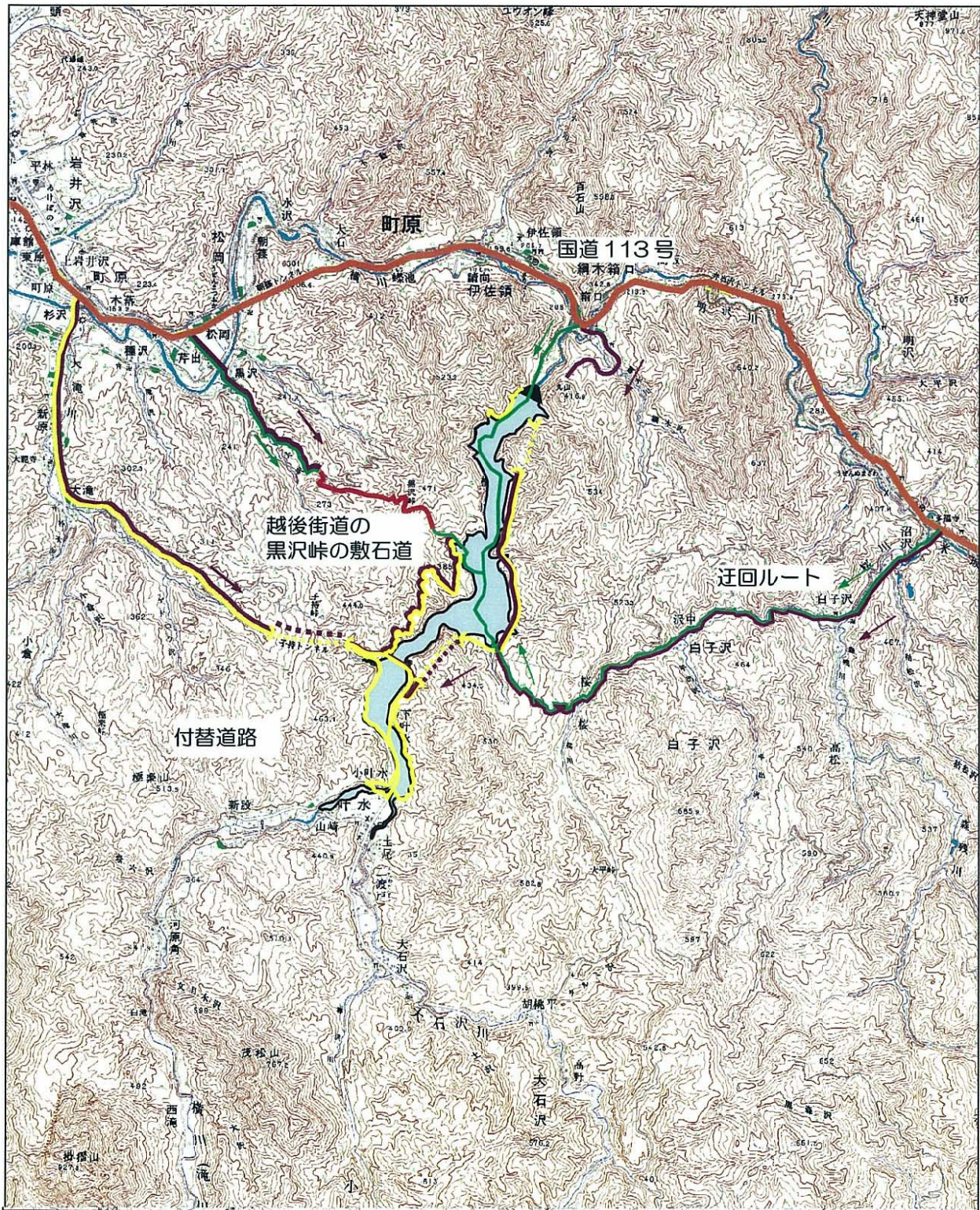











凡例

- : ダム提体
- : 貯水予定区域
- : 建設発生土処理場
- : 施工設備
- : 対象事業実施区域
- : 工事用道路
- : 付替県道
- : 付替町道
- : 越後街道の黒沢峠の敷石道



図 5.6-3  
人と自然との触れ合いの活動の場と事業計画の重ね合わせ結果



<p><b>凡例</b></p> <p>  : ダム堤体   : 貯水予定区域   : 付替道路   : 越後街道の黒沢峠の敷石道   : ダム建設前のアクセスルート   : ダム建設後のアクセスルート   : 国道113号         </p>		<p>  N   0 1km         </p>
<p>図 5.6-4 越後街道の黒沢峠の敷石道 へのアクセスルートの変化</p>		



(5) 評価の結果

人と自然との触れ合いの活動の場については、主要な人と自然との触れ合いの活動の場について調査、予測を行い、その結果を踏まえ、環境保全措置及びその他の配慮事項の検討を行い、どの項目も環境保全措置及びその他の配慮事項を検討する必要はないと考えられました。

以上のことから、人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響が事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避・低減されていると判断しています。